

捕獲等事業評価シート

様式

(茨城県 県民生活環境部環境政策課)

評価シート（ニホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	大子町八溝山付近
事業主体	茨城県環境政策課
事業実施期間	令和7年12月1日～令和8年1月31日
捕獲手法	くくりわな猟、巻狩り猟
事業メニュー	指定管理捕獲
事業費	3,752,100円

（※）捕獲コスト把握のため本事業にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

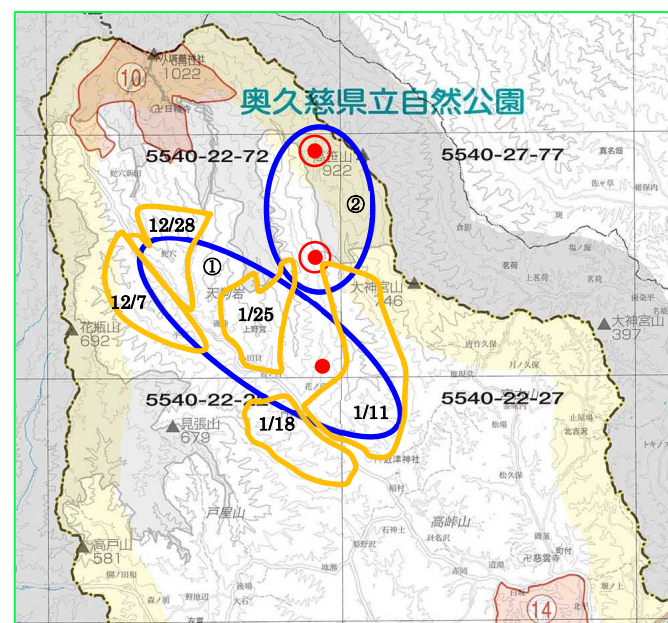
評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	ニホンジカ合計5頭	くくりわな：3頭	捕獲目標の達成率は60%であった。生息密度が低く捕獲成果が上がらなかった。また、巻狩り猟による警戒心が増してしまった。
捕獲作業量	くくりわな：3,000基日 巻狩り猟：60人日	くくりわな：3,003基日 巻狩り猟：85人日	くくりわなにおいては計画通りの作業量を巻狩り猟においては計画を上回るが作業量を確保できた。
効率的な捕獲	くくりわな：0.0007頭/台日 巻狩り猟：0.05頭/人日	くくりわな：0.001頭/台日 巻狩り猟：0頭/人日	くくりわなにおいて捕獲効率は予定を上回った。巻狩り猟においては、捕獲実施場所の選定や実施時期を検討した上で捕獲を実施することが望ましい。
事業に要した人員数	420人日	422人日	予定通りの人員数を投じて作業を実施した
安全管理体制	わな注意看板、捕獲周知看板による注意喚起などの実施。	わな注意看板、捕獲周知看板を設置したほか、野生イノシシへの豚熱（CSF）感染防止のため防疫対策も講じた	計画通り実施された。
捕獲個体の処分方法	原則として、持ち帰り、焼却処分する。持ち帰りが困難な場合は埋設処分とする。	持ち帰りが困難なため、生態系に影響が出ないように埋設処分した。	計画通り実施された。
環境への影響への配慮	ニホンカモシカの錯誤捕獲への注意。	ニホンカモシカを目撃した場合、巻狩り猟を中止した。	計画通り実施された。
捕獲個体の属性	・成獣メス1頭	・成獣オス1頭 ・成獣メス2頭	昨年度より、メスの捕獲が増加しており、生息数の増加が懸念される。

- 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 k mメッシュ地図/1 k mメッシュ地図）
 - ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）
 - ・ 捕獲開始経過日数と捕獲数の関係の図（いつ頃どれくらい捕獲できたかが分かる）、CPUE（単位努力量あたりの捕獲数）の推移
 - ・ SPUE（単位努力量あたりの目撃数）の地図

表1 令和7年度指定管理鳥獣捕獲等実施スケジュール

実施時期 実施獵法	R7.11月			R7.12月			R7.1月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
わな獵①			事前調査	稼働 20	稼働 20	稼働 20	稼働 20	稼働 20	稼働 20
わな獵②			事前調査	稼働 30 12/6 1頭	稼働 30 12/10 1頭 12/12 1頭	稼働 30	稼働 30	稼働 30	稼働 30
巻狩り獵			事前調査	12/7		12/28		1/11 1/18	1/25

※稼働の横の数字はわな稼働数
太字下線は捕獲頭数
巻狩り獵の日付は実施日



○ : わな設置場所 ○ : 巻狩り獵実施場所

捕獲地点: ●メス ●オス

図1 くくりわな設置場所および巻狩り実施場所

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

八溝山付近

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・センサーカメラによる撮影頻度（事業前半） 1.0 頭/カメラ 100 台日 ・くくりわな付近の痕跡あり
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・センサーカメラによる撮影頻度（事業終盤） 0.5 頭/カメラ 100 台日 ・くくりわな付近の痕跡減少
評価	シカの出沒は減少した。巻狩り猟においても、後半になると目撃件数が減少した。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	(シカ) 被害なし
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(シカ) 被害なし
評価	(シカ) モニタリングを実施し、被害発生時に迅速な対応に努める。

■ 添付図面

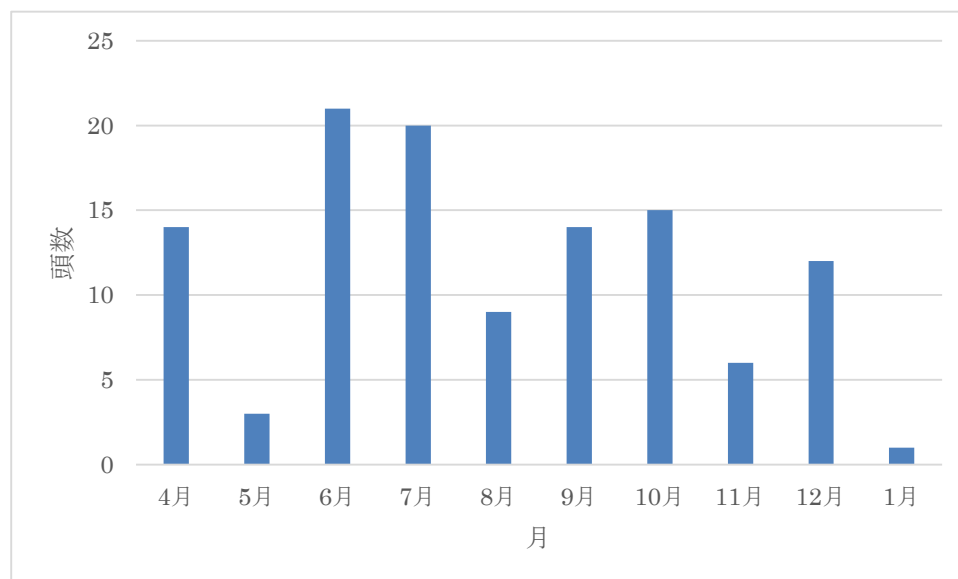


図2 令和7年度ニホンジカ目撃頭数

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：目標5頭に対して3頭捕獲し、目標達成率は60%であった。 低密度地域であるとともに、シカの警戒心も強く、目標達成には至らなかった。
	改善点：捕獲手法やわな設置箇所、巻狩りの実施時期を見直すなど、捕獲頭数の目標頭数を捕獲できるよう検討する。
【実施期間】	評価：大子町と協議し、有害捕獲との棲み分けを行っている。
	改善点：継続して実施する。
【実施位置】	評価：有害捕獲との棲み分けを行っている。
	改善点：有害捕獲との棲み分けを継続して実施する。
【捕獲手法】	評価：くくりわな猟により3頭捕獲した。
	改善点：低密度地域であり、捕獲手法について検討が必要である。センサーカメラの活用した捕獲など、地域に合った手法を検討する。
【捕獲コスト】	評価：生息密度が低く捕獲成果を上げることが、難しい地域であるため、1頭あたりの捕獲単価は高くなる傾向にある。
	改善点：巻狩り猟実施後に、くくりわな猟を含む捕獲ペースが減少したため、巻狩り猟の実施時期の検討やわなの設置位置などを含め捕獲方法を検討する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：適切な時期に発注ができ、十分な体制で捕獲が実施できた。
	改善点：継続して実施する。
【個体処分】	評価：捕獲個体は、焼却により適正に処分した。
	改善点：継続して実施する。
【環境配慮】	評価：一般に利用される道や人の出入りの多い場所から見える地点にわなを設置しないなどわなの設置場所に配慮するよう周知した。また、錯誤捕獲があった場合はイノシシを除き原則放獣することとしている。
	改善点：継続して実施する。
【安全管理】	評価：見回りは複数人で実施するなど、作業開始時に安全確認のための注意喚起を実施している。
	改善点：継続して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
特になし。	
4. 全体評価	
低密度地域で指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、ニホンジカを3頭捕獲することができたものの、捕獲数については、令和7年度の事業の目標捕獲頭数は達成できなかった。 しかし、昨年度と比較し捕獲頭数を増やすことはできた。また、安全に捕獲作業が実施されたことや、低密度地域であっても、一定の捕獲圧をかけることが出来たことは評価できる。 今後も、効果的な捕獲手法を検討していく必要があることから、目標に対して適切な場所や手法で捕獲が実施されているか、捕獲従事者との積極的な情報共有を行っていく必要がある。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	茨城県ニホンジカ管理方針においては、ニホンジカの生息状況や農林業等への被害状況などを適切にモニタリングすることにより、メスが定着し、繁殖することによる個体数の増加を防ぐこととしている。 モニタリング結果等を踏まえ、メスの出現頻度が高く、定着の可能性が高まりつつある地域である大子町において、本事業を実施した。
寄与状況の評価	ニホンジカの定着が高まりつつある地域で、捕獲が行き届かない範囲を補うために実施しており、捕獲数は少ないものの、捕獲強化に寄与したと考える。